

【テーマ2：小離島における教育委員会と学校の協働によるアクションリサーチ ～「教師が必ず育つ赴任経験」実現のため、小規模基礎自治体は何ができるのか～】

【団体名】利島村教育委員会

研究協力校：利島村立利島小中学校（教職員数24名）
研究協力委員会：東京都教育庁大島出張所
協力企業：みずほリサーチ&テクノロジーズ株式会社 等

モデル開発概要

現場における課題

- ◆ 研修機会の制約
- ◆ 指導主事未配置（約26%の自治体で指導主事未配置）
- ◆ へき地赴任のやりがい向上

モデルの概要

- ◆ アクションリサーチの実施
- ◆ 資質能力や成果の「見える化」
- ◆ 先端的オンライン技術活用による指導主事の支援改善
- ◆ 研修体系の再構成

活用する技術・ツール等

- アクションリサーチ
- 教育データの利活用による「見える化」
- 非認知能力測定ツール「AiGrow」
- オンライン技術「窓」

高度化に資する取組

「教師が必ず育つ赴任経験」実現のため、へき地の「課題」を克服し、へき地の「強み」を生かす以下の取組を実施。

①アクションリサーチの実施

- アクションリサーチフォーマットの開発と検証
- 教育長や指導主事もアクションリサーチ実施
- 教職観を省察するワークショップの実施

②資質能力や成果の「見える化」

- 教師の非認知能力の測定
- 民間の資格取得の促進による効果測定
- 自治体の教育成果を示す「指標リスト」作成

③先端的オンライン技術活用

- 指導主事による対面訪問とオンライン訪問の比較検証

④研修体系の再構成

- 研修実施者の研修、服務監督者の研修、校内研修、OJT、自己啓発研修等の連携促進

モデルを活用する上でのポイントや期待される効果

- ◆ アクションリサーチフォーマットの公表
- ◆ 「教育見える化指標リスト」の公表
- ◆ 指導主事によるオンライン支援の在り方
- ◆ 小規模自治体における研修体系の在り方